

NPOファイナンス（8） SIB 研修会（その1）

CNCP 常務理事 有岡 正樹

CNCP通信ではサービス提供部門NPOファイナンス研究会活動に関連して、「NPOファイナンス」シリーズ(1)～(7)として連載してきた。このうち(4)および(7)については、ソーシャルインパクトボンド(SIB)に関してであるが、以下の4つのCNCP事業についてその資金調達手法の適用性の検討に入っている。

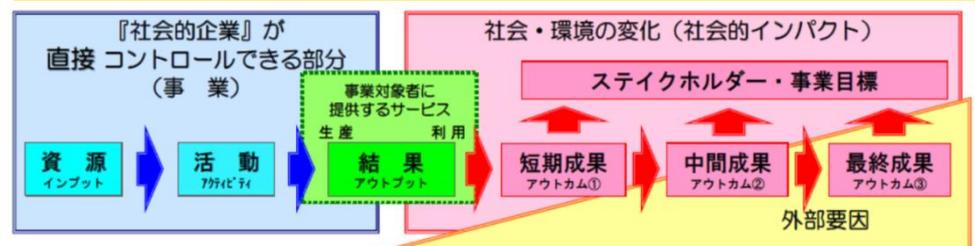
- ① ウナギ完全養殖インフラ整備事業
- ② 電線の地中化事業
- ③ インフラメンテナンスの国民理解啓発事業
- ④ インフラメンテナンスの市民との協働事業化

この結果に基づき 10月25日行われた第6回研究会では、社会的インパクト評価の専門家である新日本有限責任監査法人パブリック・アフェアーズグループリーダー高木麻美氏を講師に招いたSIB研修会（その1）と称して、試行した4つの事業のロジックモデルの評価、指導を受けた。これには、NPOファイナンス研究会メンバー以外のCNCP関係者も加えて13名が参加した。概要は以下の通りである。

1. 社会的インパクトと評価概論

参加者のうち足立会員と筆者を除く11名については公にSIBに関する研修の受講経験がないので、具体的事例についての評価に先立ち社会的インパクト評価の概論に関する説明を受けた。その内容については今期末までに「NPOファイナンス研究成果報告書」として紹介するので省略するが、その共通認識的な定義と、その分析に用いるロジックモデルの概念図としては以下のとおりである。

‘短期、長期の変化を含め、事業や活動の結果として生じた社会的、環境的な「アウトカム」を社会的インパクトと称し、その成果を定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること。’



CNCP 社会的インパクト評価分析のロジックモデル概念図（研修会資料より）

2. 試行事業について検討結果発表と意見交換

4つの事業についての個々の結果については、次回「SIB研修会（その2）」と合わせて報告するが、ここでは評価のロジックモデルとして共通する点について触れておきたい。

・インパクト評価の2つの視点

- 1) インパクトの定量評価とそのSIB組成の組み立て
- 2) アウトカムを論理的に評価するプロセスの明確化

今回の試行的検討では、①、②の事業が前者に、③、④の検討が後者に相当する。

・アウトカム評価により事業成果が左右されるPFI/PPP この意味でもすごく興味のあるテーマであるので、引き続きその進展について話を聞きたいし、協力できることがあれば一緒にしたい。

*3月末ごろ「SIB研修会(その2)」の開催を予定しているので、関心のある会員の参加を期待したい。